

戦後・被爆80年

# 絵本で考ええる 戦争、核兵器のない世界

世界で戦争が続き「核兵器廃絶」への関心が高まるなか、平和を実現するには、どうしたらいいのでしょうか？ あらためて戦争や核の問題を自分のこととして感じ、考えることが大切になっていきます。そのきっかけになる絵本を、竹迫祐子さんに紹介してもらいました。

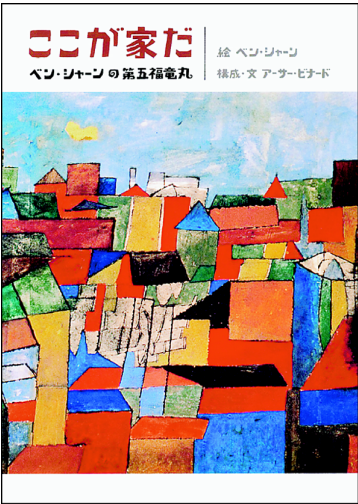
(公財)いわさきちひろ記念事業団理事  
竹迫 祐子

## ささいなことで 戦争は始まる

ある日、「お月さま」が遅刻してきて、「お日さま」は怒鳴りまです。「遅いぞー」。こんなささいなことから、太陽vs月と星の全面戦争がはじまったというお話は、『おひさまとおつきさまのけんか』。『ねないこだれだ』等でおなじみのせなけいこが描いたこの絵本は、戦いの行きつ戻りつ、全てがなくなり闇の世界…と、戦争に直面する姿を描



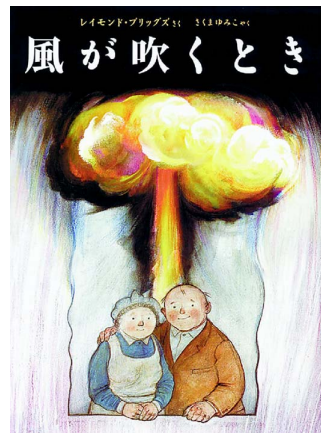
『おひさまとおつきさまのけんか』せなけいこ：作・絵／ポプラ社／2003年／1210円



『ここが家だ』ベン・シャーンの第五福竜丸。ベン・シャーン：絵、アーサー・ピナード：構成・文／集英社／2006年／1760円



『楽園に降った死の灰』《マーシャル諸島共和国》森住卓：文・写真／新日本出版社／2009年／1650円



『風が吹くとき』レイモンド・ブリッグズ：作・絵、さくまゆみこ：訳／あすなろ書房／1998年／1760円

『風が吹くとき』は、1954年のビキニ環礁での水爆実験とその被害を描いています。アメリカの画家による作品群『ブッキー・ドラゴン』から構成し、詩人のアーサー・ピナードが物語を紡いだものです。シャーンが語る『核汚染の地球』シリーズには、劣化ウラン弾による被害(イラク)や、二千回以上の地下核実験の被害(カザフスタン)を伝える二冊もあります。

『絵で読む広島』は、被爆者が語る地獄絵を描き出すとともに、原子爆弾の構造や威力、人体への影響等を解説しています。核兵器の被害は、広島、長崎だけではなく、ベン・シャーンが



『絵で読む 広島原爆』那須正幹：文、西村繁男：絵／福音館書店／1995年／2860円

『核兵器をなくすと世界が決めた日』は、川崎哲が監修・解説、高橋真樹・岩崎由美子・文、TOTOが絵・大月書店/2022年/1760円



爆弾のすきな将軍  
U・エーコ & E・カルミエ  
海都洋子  
『核兵器をなくすと世界が決めた日』川崎哲：監修・解説、高橋真樹・岩崎由美子：文、TOTO：絵／大月書店/2022年/1760円

核の被害を伝えれば伝えるほど、「核抑止力」に期待する言説も大きくなりますが、『爆弾のすきな将軍』は、大金を投じて保持した兵器は使いたい、

編集部から  
1面クイズ、老朽下水管が原因の道路陥没の件数に驚く。私たちの暮らしはこんなにも危うい。早急な調査や補修するにも人員や機械が不足。命が脅かされない社会にする根本は、予算か。(か)



ウクライナからの贈りもの2025  
2月22日(土)〜3月7日(金)／東京・東中野ありかホール(ホレポレ座ビル7F)／11時〜18時／無料(会場では寄付を受け付けます)／問合せTEL:03(32627)1405、メール:artik@polepoletimes.jp

文化情報  
2022年から始まったロシアによるウクライナへの軍事侵襲。ポーランドやブルガリア、ウクライナ西部で避難生活を送るウクライナの子もたちが描いた絵画や立体作品を約50点展示する。子どもたちを支援するNPO法人日本チェルノブイリ連帯基金(本部長野真松本市)に、現地ボランティアや支援者を通じて届けられたもの。最初の展示から2年経ち、子どもたちは他国での暮らしが当たり前になった。彼らの絵はどう変化したのか。

節分のいり大豆を使った、香ばしく栄養価も高い炊き込みご飯です。もち米なしでも切り餅を入れて炊くとおこわ風に。  
材料(4〜5人分) 精白米2合、切り餅1個、いり大豆50g、鶏ひき肉150g、ニンジン1/3本、レンコン60g、シイタケ2枚、A(しょうゆ・みりん各大さじ1)、B(酒大さじ2、塩小さじ1/2、しょうゆ小さじ1)  
作り方  
①米は洗って炊飯器の内釜に入れ、1合の目盛りまで水を入れて浸水させておく。  
②ひき肉にAをまぜて10分ほど置いておく。ニンジンは太めのせん切りに、レンコンは薄いいちょう切り、シイタケは薄切りにする。切り餅は6等分に切



る。  
③①にBを入れ、2合の目盛りまで水を注ぎ入れて軽く混ぜ、切り餅を散らし入れて、②のひき肉を広げ入れ、煎り大豆と②の野菜を広げのせて通常通りに炊く。  
④炊き上がったら、軽く混ぜて器に盛る。  
■1人分354kcal、塩分1.3g

旬レシピ  
いり大豆もち米炊き込みご飯  
管理栄養士・料理家 金丸絵里加